

【プレスリリース】

国文学研究資料館が福岡市総合図書館（福岡市文学館）所蔵
「上野英信自筆資料・原稿」のデジタル画像公開
—戦後炭坑労働、集団文芸運動、記録文学史の重要資料—

2024/5/24

国文学研究資料館（以下「国文研」）は、福岡県福岡市の福岡市総合図書館（福岡市文学館）が所蔵する上野英信自筆資料 45 点（2,146 枚）の高精細デジタル化に取り組み、2024 年 5 月に国文研の「国書データベース」にて公開しました。戦後日本の労働運動を代表する文学者である上野英信の自筆資料コレクションは、作家の実像をあらためて鮮明に浮かびあがらせるだけでなく、近代日本の記録文学の流れ、そして労働と言葉の関係について知るための重要資料を多く含んでいます。

上野英信（1923-1987）は山口県吉敷郡井関村（現・山口市阿知須）に生まれました。満洲建国大学に入学後に学徒出陣し、1945 年に広島で被爆、京都帝国大学に編入学の後中退して九州の炭坑で働きはじめます。炭坑労働者の文芸工作集団による雑誌「地下戦線」に仲間とともに作品を発表、『えばなし・せんぷりせんじが笑った！』（1954）をガリ版で刊行したほか、谷川雁や森崎和江とともに「サークル村」を創刊し、戦後社会において社会運動と集団的な記録・創作文芸を連関させる道を開きました。サークル村以後、『追われゆく坑夫たち』（1960）や『地の底の笑い話』（1967）を発表しつつ、鞍手町に私設図書館「筑豊文庫」を開き、炭坑閉鎖後の坑夫たちのゆくえを南米に探った『出ニッポン記』（1977）、沖縄の眉屋一族の歴史から沖縄の近代を描き出した『眉屋私記』（1984）を発表しました。

英信の文学は戦後日本の文学史にとって重要であるだけでなく、日本の石炭エネルギーとその終焉がもたらしたさまざまな影響を考える上で重要な記録と提言であり、その影響は政治史・社会史・思想史に及んでいます。『出ニッポン記』と『眉屋私記』に描かれた移民の記録は、今日の日本社会について考える上で示唆を与えるものです。英信の文学が提起した問題の数々は、今日こそ読み直されるべき性質のものであると言えます。

上野英信の自筆資料は、上野家の方々が保存につとめてこられたものであり、現在は福岡市総合図書館（福岡市文学館）が所蔵しています。2023 年より同館と国文研との協力・連携のもと進めたデジタル化により、英信の自筆資料のインターネットを通じた検索・閲覧が「いつでも、どこでも、どなたでも、そして無料で」可能になりました。（※「国書データベース」は 2024 年度より、当館の旧「近代書誌・近代画像データベース」のデータを統合しております）

■ デジタル公開の意義

高精細画像によって公開される原稿には、英信とその仲間たちが労働と文芸を両立させてゆくために払った労力が如実にあらわれています。『創作戯曲／任侠の川は甦える』（1953）は「筑豊炭坑労働者文芸工作集団用紙」に書かれ、自作原稿用紙に書かれた『えばなし・せんぷりせんじが笑った！』（1954）はガリ版のレイアウト通りになるようマス目を工夫しています。こうした集団的な創作の実態を、今回の画像公開によって確認することもできるようになりました。原稿でのレイアウトの工夫は後年の『写真万葉録・筑豊』（1984～86）にも続いており、妻・上野晴子による清書原稿も確認できます。

今回公開する自筆資料は上野英信の初期作品から晩年の『眉屋私記』、『写真万葉録・筑豊』にいたる時期の作品であり、英信の労働運動と文芸の展開をたどることが可能です。作中の方言を標準語に変更した『一鍬ぼり』（のち『えばなし・ひとくわぼり』1955）の訂正や、『追われゆく坑夫たち』（1960）の原型と考えられる『地獄の息子たち』、『地の底の笑い話』（1967）の原型と考えられる『石の中のみずうみ/炭坑の笑い話』を完成形と比べながら見ることで、英信が炭坑に見ようとした物語の形を捉え直すこともできます。

大学の教室や集会場でも、英信の自筆資料をスマートフォンやPCの画面で読み、苦心のあとをたどることができるようになりました。自筆草稿を誰もが閲覧できるようになったことで、英信と彼の運動の実像をより正確に伝えることができるようになり、文学の研究・教育はもちろん、さまざまな分野における探究の可能性が広がると考えます。

なお今回の画像公開は、国文研の事業「近代文献草稿・原稿類に関する所在目録調査と研究」の一環であり、すでに公開している「島尾敏雄特別資料」（かごしま近代文学館蔵）・「森田思軒自筆原稿資料」（笠岡市教育委員会管理）・「中原中也自筆資料」（中原中也記念館蔵）・「武者小路実篤自筆資料」（武者小路実篤記念館蔵）とともに見ることで、近代文学における「自筆資料」の具体的な姿を知ることができます。

〈本件に関するお問い合わせ〉

・国文学研究資料館 管理部学術情報課 社会連携係

E-mail: jigyou@nijl.ac.jp / TEL: 050-5533-2910 / FAX: 042-526-8607

・福岡市総合図書館（福岡市文学館） 文学・映像課 文化資料活用係

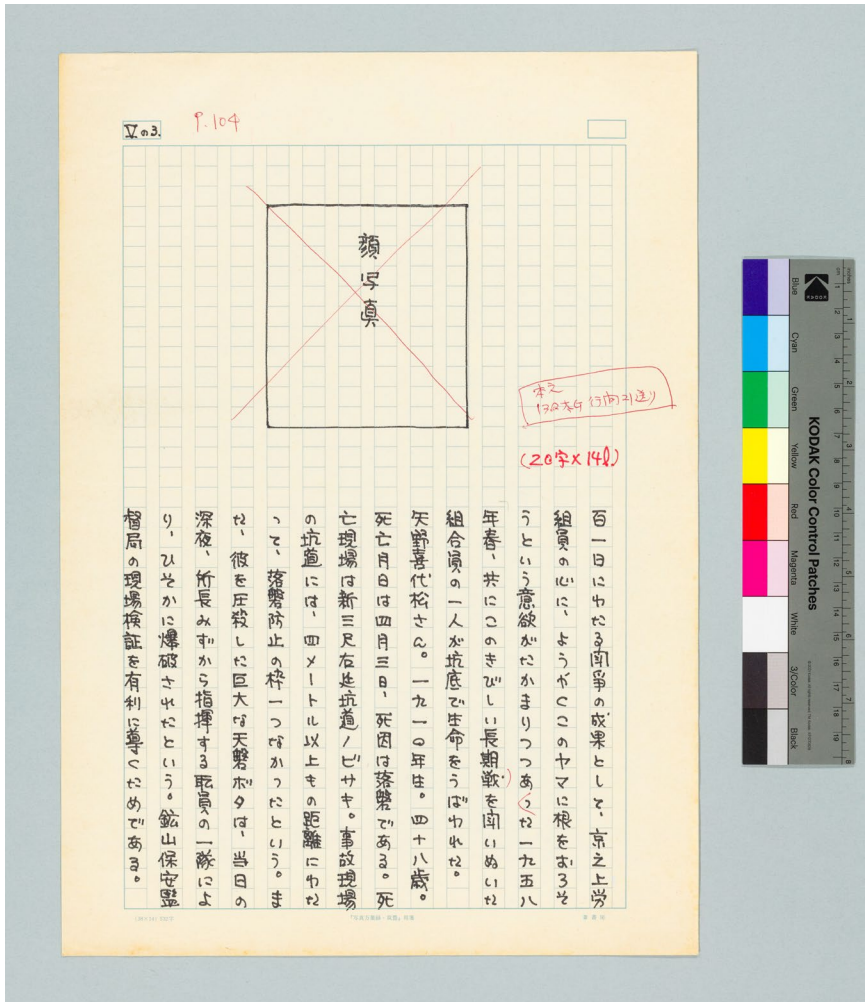
E-mail: bungakukan@city.fukuoka.lg.jp/TEL: 092-852-0608/FAX: 092-852-0609

■「国書データベース」で公開される上野英信自筆資料の例

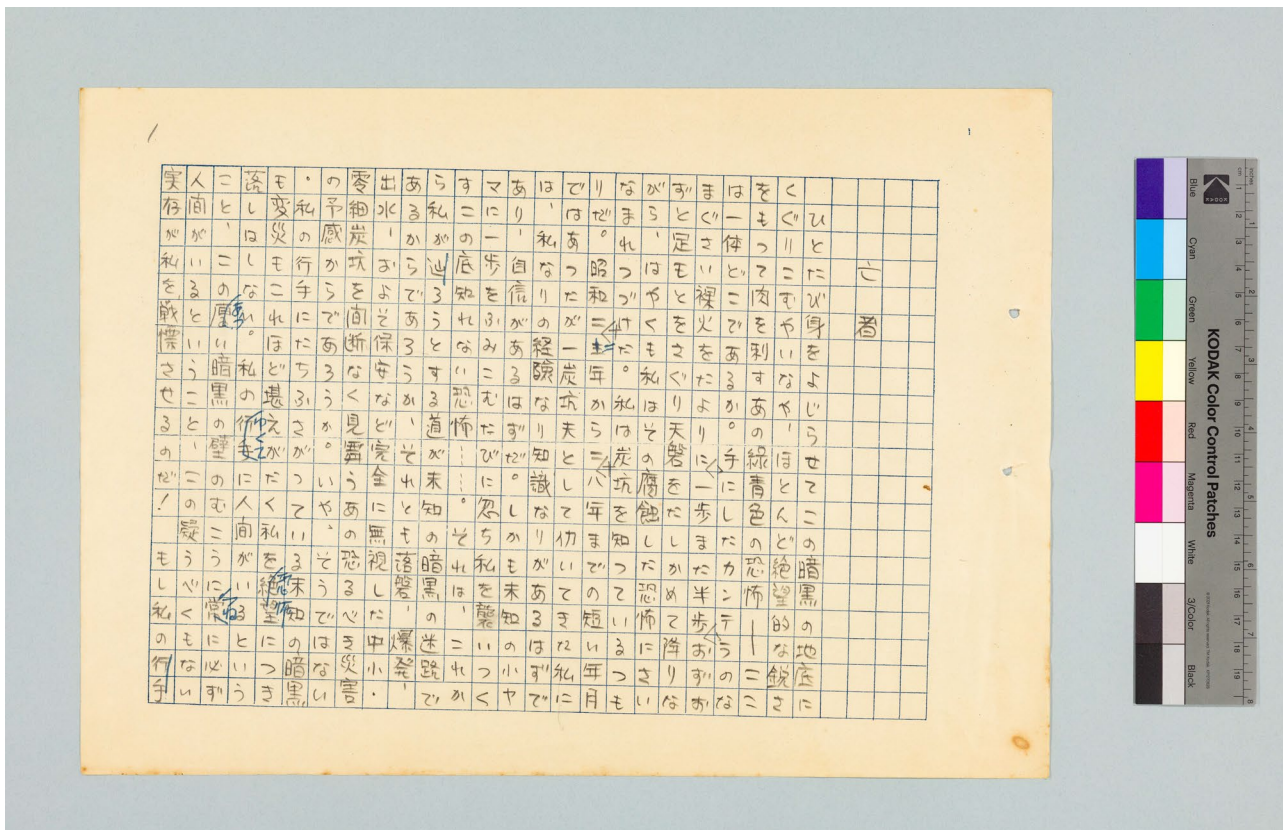
原稿：絵ばなし／せんぷりせんじが笑った！(FOSB-00006-00002)



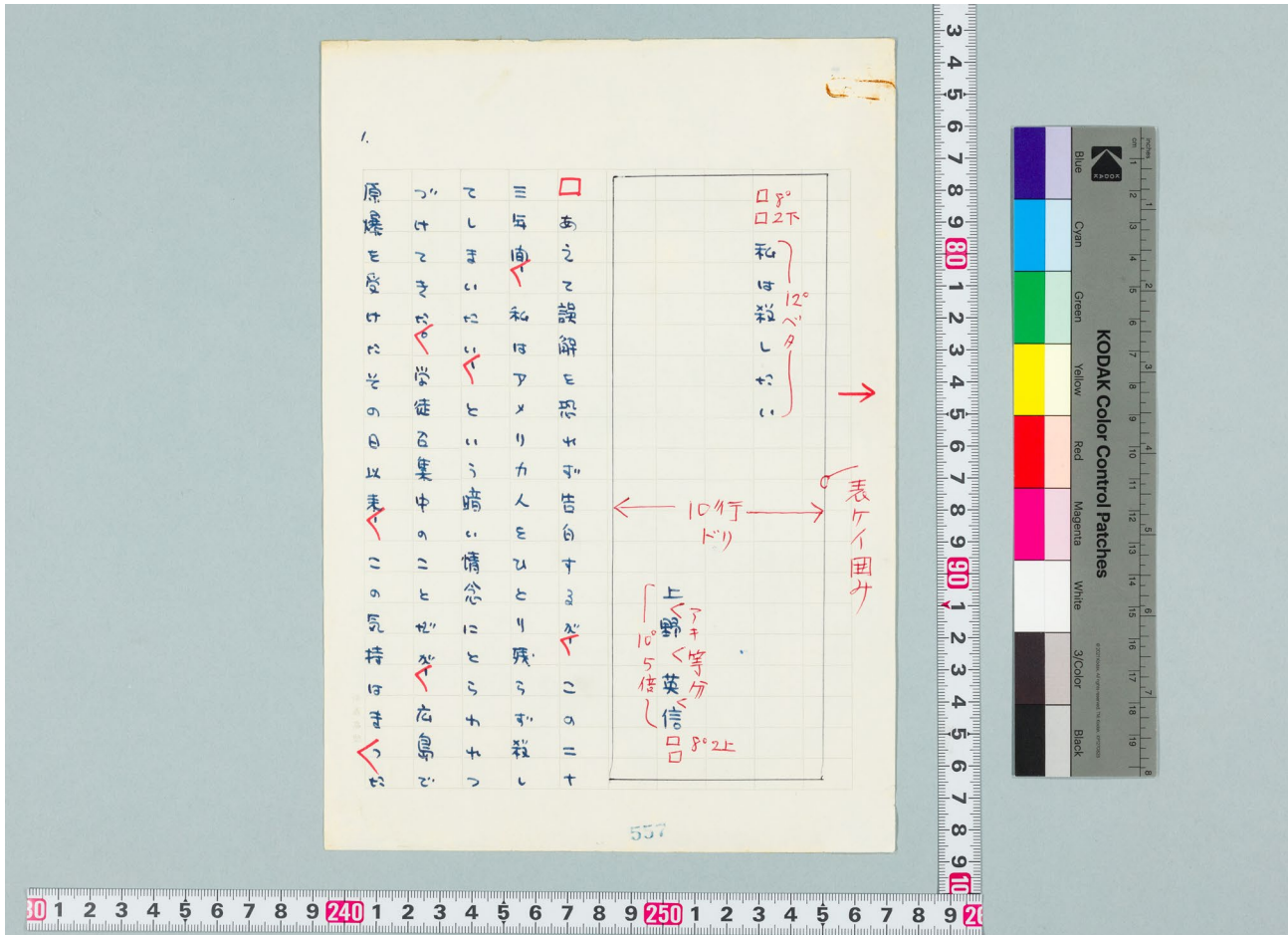
原稿：写真万葉録・筑豊／4／カンテラ坂(FOSB-00033-00025)



草稿：地獄の息子たち(FOSB-00010-00009)



原稿：私は殺したい(FOSB-00019-00001)



またしても話は一と前後するが、もう一度、作江一等兵の最期の函題に戻りたい。はじめに紹介したとおり、一九四二年度発行の第五期国定国語教科書に於て、彼は「天皇陛下萬歳」を唱えて、静かに目を閉じたという。これは果たして事実なのかどうか、私はこのかわりすぎるほどに悩んで、その根拠

コクヨ 10×20

